第１回石川県社会福祉会館の在り方検討委員会 議事概要

１ 日　　時　令和５年５月１日（月）１０時から１１時２０分

２ 場　　所　石川県庁行政庁舎１１階　１１０４会議室

３ 出席委員　委員名簿参照

４ 議事内容

（１）委員紹介・委員長選出

委員長に森山委員を選出

（２）説明事項

事務局から会議資料に基づいて説明

（社会福祉会館の概要、現状と課題、全国の状況、新会館の機能の検討、
全国の施設整備の状況、会議室や研修室以外の施設の紹介、
今後のスケジュール）

（３）意見交換

【森山委員長】

事務局からの説明で検討の方向性というのが示されている。現会館が抱える課題、福祉団体からの意見を踏まえ、「新たな会館のコンセプト」と「それを踏まえた新たな会館が果たすべき機能」について、ご意見をいただきたい

【委員からのご意見】

・福祉の関係者からの声は常に駐車場が不足。アクセスについても、能登地区の方からは、本多町に行くのは大変との意見

・福祉会館は県民が使うもの、能登も加賀も金沢も、より集まり易い場所という点で駐車場の確保は必要。その意味で、県下全域からアクセスがよい鞍月近辺での建替を希望

・福祉の様々な分野、職種があり、今 SDGs とか多様性などがテーマ。福祉は一人ひとりが生涯必ずどこかで関わる分野なので、新しい会館には社会（県民）に対して開かれた、広場のような役割をもった場所になって欲しい。さらには、県民と福祉関係者との間で福祉のつながりが互いに強まるような場所にして欲しい

・どういう場所でどういう施設にするかも含め、これからの時代に向けたコンセプトを

作っていくことが大事

・福祉会館なので福祉関係者のみの利用を考えがちだが、福祉関係者以外の人も含めたいろんな人達が、それぞれの可能性を引き出していく場所とすることが大切

・資料中の研修、相談、活動、防災の４つの機能は当然あって然るべき機能だが、５つ目として福祉関係者のみに限らず会館を「地域」に開くこと、近くの人達がいつでもやってくる視点を加える必要がある

・研修、相談、活動、防災といった取り組みは、従来の在り方ではなく、新しい在り方をまずは考え、それに合ったものをつくるのがいい。１つ１つの機能の在り方、ストーリーや哲学を押さえたうえで、設計に生かしていただけたらと思う

・会館機能の充実には、携わる「人」が重要。どういう人をどのように機能させて、地域や当事者と連携しながら進めていけるのかが重要。そこをうまく回していけるような「人」を確保することが重要

・社会福祉会館に集まる多くの団体、機関が、今以上の連携の構築、機能充実をどう図るのかが大切。連携という視点も勘案して検討する必要がある

・研修や人材育成は重要な視点。相談機関と研修施設が隣接できれば良い

・障害福祉の立場、また国が目標として掲げている地域共生社会の実現という点から、会館に来れば福祉に関する様々なことが知れる環境としてほしい。障害者一人ひとり能力はいろいろで一人ひとりが活躍できる環境になればいい。今、県民の皆さんに障害のある方のご理解をいただくには、そのような場がたくさんあることが重要

・防災という観点で、県社協も市町社協も災害ボランティアの派遣のために発災直後の初動を担うが、その後は様々なボランティア団体が心のケア等の役割を担う。そうした団体との連携のために日頃から交流をしておくことは大事。そうした団体がミーティングやいろいろな作業ができる場所を提供できることも必要

・会館を気軽に利用できることはいいことだが、一方で、地域で困っている人がたくさんいる。そういう方が安心して相談できる場になって欲しいし、寄り添える場所にして欲しい

・児童相談所の機能が忙しくなっている中で、社会福祉会館の中にある専門的な機関として、関係者が相談でき、持ち帰って実践できるという環境ができるといい

・発達障害の子ども達が増えており、特に小学校に上がる際に現場のノウハウが活かせ

ず困ることがある。そうしたところを「コーディネート」してあげるのが重要。全国の様々な事例になかなか辿り着けない。そうした事例にワンストップでアクセスできるような機能があればよい

・現会館の入居団体の要望を聞く場面を設けて欲しい

・福祉に関する様々な相談を受けられるような機能が必要。福祉関係者や市町の（福祉の）ご相談も受け止められるような機能を備えることが重要。そのための研修や人材育成ができる部屋の確保等、新たな会館で対応してほしい

・現会館の駐車スペースは、非常に狭く車が停めれない。融雪装置も故障しており、降雪時は大変。障害者用の屋根付を２台確保しているが、利用し易い駐車スペースの確保も重要

・毎日一番利用するのは、県社協の職員。職場が明るく、自由にいろんな話ができる環境を作れば、地域の人からも「ここで相談しても大丈夫」という雰囲気が出てくる

・社会福祉協議会の活動の充実は大切。また、これからの福祉と未来を担う学生とのコラボの場も考えていただきたい

・災害ボランティアについて、特に雪が降ったら駐車場がない、雪が降ってまったく動けませんでは論外。屋根付き又は地下の駐車場があって、防災用具を置く場所がいると思うが、ボランティアの声も聞いてみると良いと思う

・県立図書館は話せる図書館ということで、よく考えられた設計だと思うし、世界に通じると改めて思った。学生に来てほしいとの意見は同感だが、学生はやっぱりお洒落な所じゃないと来ない。地域の人も、子供連れたお母さんがやってくるところは、やっぱり設計がきちっとしてる、いつでもふらっと来たいと思う場所にするにはしっかりとしたコンセプトと具現化する設計が大きな要素だと思う

・研修センターが仮移転中のため、個々の研修場所を探す際、同じ県施設でも一つ一つ申請の窓口やフォーマットなど、手続きがそれぞれ違う。こういうことをワンストップの情報としてまとめてあるだけで全然違うと思う。必要な情報とか、相談機能とか研修機能とかも含めて、具体的に提供される仕組みっていうのは、ものすごく今必要だと思う

・インターネットでできるようなもの、実際にそこに行かなければできないものを整理しておく必要がある。研修会場等々にしても、仕組みさえ整えればもっともっとアクセ

スがよくなり、研修が受けやすくなる。検討して欲しい

・大きなホールをそんなに使うことはないと思うが、立地場所も踏まえてのホールの必要性について、決めておくのがいいと思う

・研修の充実には、会議室、研修室の数、定員が重要だが、国際会議でも１００人の部屋を合わせて２００人にするとか、５０人の部屋を合わせて１００人にするといったようなフレキシブルに使うなどの工夫がある。大きなホールを作るという発想よりは、そういった工夫が必要

・情報を集積して発信できるようなところがあれば斬新。情報がここに行ったらある、例えば、高齢、障害、児童分野の研修講師を探したい時に、「こういう講師がいますよ」といったような情報が集まるセンターとなればいいと思う

・今、どこの分野も人手不足。そんな意味で福祉の魅力を発信できる場所になって欲しい。ここに行けば何でもわかる、知れるといったものにしてほしい。小さい時から福祉の魅力に触れることができて、大学生であっても、小中学生、保育園児、どんな場面であっても、後日、見返してもらえるような環境や仕組みを作って欲しい

・一つの目的に対して一つの空間ということではなく、限られた空間でいろんなことができる、柔軟に、運営もいろんな人が関わって、企画できるようなことを念頭に置いて整備を進めてはどうか。いろんな人が関わって、企画までやると、より面白いものになると思う

・コンセプトメイクの中で「日常性」と「非日常性」をどう振り分けるか。職員が毎日働くといった「日常性」を大切にしておかないと施設が使われなくなる。両方を上手くとらまえながらなのだが、案外、「日常性」の方が欠落する。「日常性」にきちんと目を向けて、設計、建築に入って欲しい。次回のコンセプトにここら辺の切り分けがしっかりあって欲しい。そういう視点も持っていただければと思う

・たくさんの人が出入りするというのは、とても良い試み。皆がより集まりやすい場として、こうして作ろう、ここは何だろうっていうふうな、そういう楽しい場に見せる工夫をしながら、実際に施設に入ってみると、「こんな面白いものが置いてあるんだ」とか「こんな知識を得られるんだ」、そういうものを作り上げられたら素晴らしい